

成果を評価する上では、 適切な目標を掲げることが重要

町内全域に留まらず、小地域の特性に応じた目標設定を行うことで、地区の住民にとって納得感や達成感の得やすい目標となる。

住民主体の活動を継続する上では、適切な目標設定、自分たちが納得できる目標設定が必要。

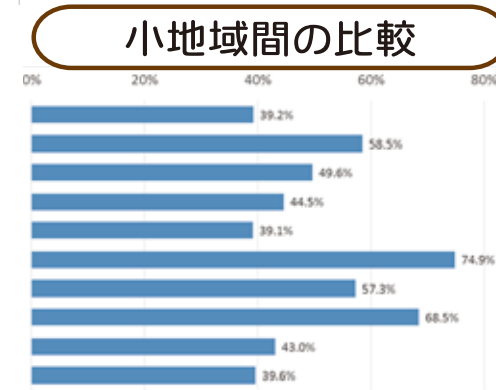
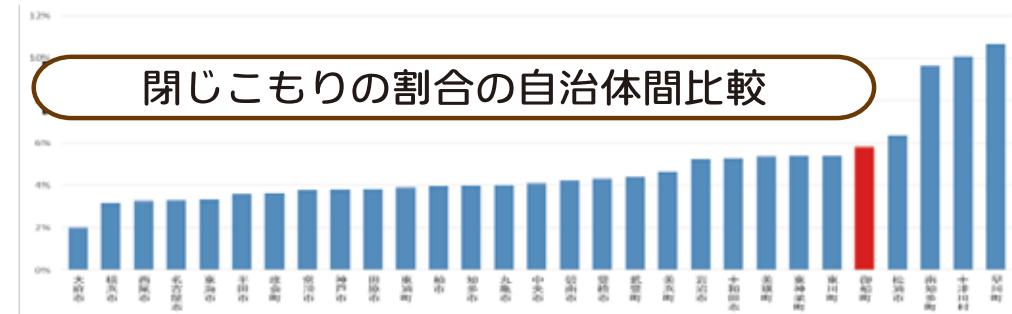
ガイド



以下のスライドには、実際に準備する段階で参考になる情報をリンクしています。
必要に応じてご使用ください。


取組み事例④ 調査データを活用した多職種連携による閉じこもりの地域格差対策：K 県 A 町

時期	概要
H25.10	JAGES 調査：町内10地区別に集計
H25.11 - H26.3	地域包括ケア会議 3 回開催。 参加部署：防災・環境・教育・建設・企画振興・農林企画・観光交流推進・税務・国民保険・介護保険・健康推進・社会福祉・地域包括支援センター・社協 地域診断グループワーク：優先課題「閉じこもり」と判断
H26 年度	地域包括ケア会議定例化（8 回／年） 各課の事業と高齢化関連の課題共有
H27.1	小地域間比較データより、中山間地「M 地区」での他部署連携による社会参加促進事業を決定。
H27.1	K 県補助金を獲得 M 地区の住民組織と協議開始
H27.2	第 6 期介護保険事業計画に閉じこもりの地域間格差対策の長期計画を盛り込む
H27.4 以降	民間組織を含めた協議体設置予定



解説

- 健康と暮らしの調査結果を他の市町と比べることで、閉じこもりの割合が多いことを課題として認識。
- 医療・福祉・介護の専門職だけではなく、防災、環境、教育、建設、農林、観光、税務などの部門を交えた地域包括ケア会議で、閉じこもりを地域の課題として共有。



取組み事例④ 調査データを活用した多職種連携による 閉じこもりの地域格差対策：K 県 A 町

決定した閉じこもり地域格差改善目標

	平坦部	中山間部
現状	6.1%	11.1%
第6期	6.0%	10.1%
第7期	5.5%	9.0%
第8期	5.0%	8.0%

解説

■同じ町内でも平坦な地域と中山間部では閉じこもりの割合に大きな差があることも共有。平坦部と中山間部では異なった目標を設定。

■中山間部の中でも課題の大きい一つの地区に重点的に介入し、多くの部署と連携して地域参加促進事業を行うことを定め、県の補助金も獲得。

■短期の目標だけでなく、閉じこもりに関する町内の地域間格差対策を介護保険事業計画の長期計画にも盛り込んだ。

